



- 研修会「図書館流通を知ろう！」開催報告
- フランクフルトブックフェア報告
- 出版・印刷人の集い報告
- 年末会員懇親会報告

ほか

2018.1.18 NO.1 (通算87号)

一般社団法人 自然科学書協会 | 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-101 | 神保町 101 ビル 1 階 | TEL 03-5577-6301 | <http://www.nspa.or.jp/>

謹
賀
新
年

年頭にあたってのご挨拶

一般社団法人 自然科学書協会

理事長 南條 光章



二〇一八年の年頭にあたりまして、会員の皆さま、業界団体の皆さまに新年のご祝詞を申し上げます。本年も、何卒よろしくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

二〇一七年二月一日に業界有志による成田山出版講が深川不動尊で執り行われ、二〇一七年の息災御礼、二〇一八年の商売繁盛と当協会の盛会を、大護摩供養によって祈禱してまいりました。この成田山出版講は一九五二年、まだまだ業界活動もままならない中で、当協会の有志が中心となり、各社の商売繁盛を願って成田山参拝を行ったのが始まりと聞いております。業界活動や販売実態は当時と比べるまでもありませんが、当協会と業界の発展を願う気持ちにいささか

の変わりはありません。本年の会員社の発展と業界団体の飛躍を祈念いたします。

昨年の年末会員懇親会の席上で、販売会社役員の方から物流に関する現状が披露されました。主に専門書や専門雑誌を扱う当協会会員社にも、物流に関わる人手不足は少なからず影響が出てくるものと思われまます。当協会でも、物流対応について、会員社間で協力体制を考えていく時期に差ししかかっているのかもしれない。

さて、二〇一七年の書籍販売部数では、佐藤愛子著『九十歳。何がめでたい』や故日野原重明先生の著作が上位を占めたとの報道を耳にしております。これは、現在の不安定な世情や内外情勢の混迷等が原因となり、心のよりどころになる書籍が求められ、販売に寄与したものと推測いたします。さらには人生百年といわれる超高齢化社会になりつつある中で、その人生設計や余生をどのように過ごすかのヒントとなる書籍として受け入れられたのかもしれない。

当協会会員社はベストセラーといわれる書籍の販売は難しいかもしれませんが、科学技術書のロングセラー販売で、引き続き世の中に貢献してまいりたいと存じます。本年も会員社が切磋琢磨しながら、良い企画を出版されることを切望しております。

超高齢化社会の一方で、少子高齢化が顕著になりつつあります。今年から一八歳年齢の人口が減少していくことで、とりわけ当協会会員社にも関連深い教科書の採用にも影響がでてくるのが懸念さ

れます。教科書受注によって採用部数を確保して、売上げを担保するという従来からの拡張に加えて、企画力と一層の販売方策が重要となります。そして今後の教科書採用においては、オンデマンド版や電子版教科書も視野に入れて対処していく柔軟な対応が求められる一年になるかもしれません。

さらには、「教育の情報化の推進」の議論によつては、教科書市場にも大きな影響がでるかもしれません。契約方法に関する議論の進展を注視しつつ、会員社の利益を害することがないよう最大限の協力体制をとってまいります。

販売活動にしましては、「東京国際ブックフェア」の開催中止が決定されました。これまで当協会でも構成団体として出展に協力してまいりました。少しの準備期間をおいて、新たに出版すると伺っておりますので、その折には前向きな姿勢で臨みたいと考えております。

消費税率の変更が二〇一九年一〇月に行われる予定です。当協会では早くから軽減税率の適用を要望しておりましたが、出版業界に軽減税率が適用されますように引き続き全面的に協力してまいります。

業界をとりまく販売環境は年々減少の一途を辿っており、はなはだ厳しい状況と言わざるをえません。そのような中ではありますが、当協会は一年を通して積極的な活動を行ってまいります。本年も相変わらせず、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

研修会「図書館流通を知ろう！」 開催報告

自然科学書協会研修委員会による研修会が二月七日（木）一六時三〇分から日本出版会館四階会議室にて開催された。株式会社図書館流通センター（以下、TRC）仕入部部長の池田和哉氏を講師としてお迎えし、「図書館流通を知ろう！」と題して行われ、三二社、五七名が参加した。

冒頭、簡単な自己紹介に続き、大きく分けて次の四つについて説明があった。

① TRCの業務内容

TRCは取次会社と勘違いされるが、図書館への通販を行っている書店である。それも図書だけでなく図書のデータ（MARCC）も販売している。そのため、業務内容は図書の装備作業とデータ作成である。

装備作業とは分類などが記入されているラベルを背に貼ったり、フィルムコートで覆ったりする作業のことである。一方、データ作成はMARCCが最大三〇〇項目と多岐にわたっているため、仕入れた図書をもとに作成することが鉄の掟で、他からのデータを流用することはない。そのデータをもとに週一回発行するカタログ（週刊新刊全点案内）を作成し、図書館に配布をしている。

なお、指定管理者制度により図書館の運営業務も行っている。運営する図書館は全国で約五〇〇館にのぼり、現在で

は売り上げの一番多くを占めている。

② 図書館における発注から納品まで ・新刊図書について

カタログをもとに図書館が発注を行う。迅速（最短で五日）に納品するため、類書の実績などをもとに指定配本で版元に発注を行い、カタログ掲載の六割を二〇週間在庫している（ストック・ブック）。

・既刊図書について

週刊新刊全点案内に図書館での企画展示やフェアなどに活用できるDMを同封し、企画を提案している。とくにグループ会社bklを始めた二〇〇〇年ごろに倉庫を大きくし、在庫が多くなったため既刊図書販売に力を入れるようになった。このDMは企画提案のような内容だけではなく、高価本のDMも行っている。近刊情報から公共図書館向きの高価本を選び、三千枚のDM同封が一万八千円の費用でできることを各社にアプロウチしている。また、現物をもって図書館を訪問する「ブックキャラバン」も展開している。なお、予約注文はほとんど行わず、実際に刊行された図書のみ注文を受けている。

また、「図書館のためのブックフェア」を開催しており、春は学校の図書館向け、秋は公共図書館向けとしている。

③ 図書館における自然科学書系出版物の需要

二〇一七年と二〇一六年のサイエンス、テクノロジー分野の売り上げリストを見

ながら選定基準について説明があった。シリーズとして実績がある図書や類書がない図書が上位にきている。また、図書館では平日の日中に来館する人をイメージして発注を考えているということも重要である。

④ 自然科学書系出版社へのお願

以下の二点についてお願いがあった。

- ・書式は問わないので近刊情報を提供してほしい。
- ・二〇週間経ったストック・ブックを返品させてほしい。

また、一五〇から二〇〇の出版社と月に一回意見交換をしているので連絡をもらえば個別に話を聞いている。

最後に質疑応答が行われ会場からいくつかの質問があった。

Q. コンピュータ書が売り上げデータにないのはどうしてか。

A. コンピュータは分類コードがちがうためである。

Q. 版元が分類コードを決めた方がよいのか。

A. とくに決めなくてもよい。なお図書館はCコードを気にしていない。

質疑応答終了後、これからはTRCの認知度をさらに上げていきたいとの抱負を述べられ、定刻の一七時半に終了した。

（研修委員会 大井隆之）



図書館流通について具に語る池田氏



メモを取りながら熱心に耳を傾ける参加者達

フランクフルト ブックフェア報告

二〇一七年一月一日(水)から五日(日)の五日間、ドイツ・フランクフルト国際見本市会場にて「第六九回フランクフルト・ブックフェア(主催「ドイツ書籍業協会、テーマ国「フランス」)」が開催された。自然科学書協会は、例年と同じく日本共同ブースの展示コーナーに一六社四〇点の書籍を展示した。今回も日本文学出版交流センターの業務を継がれた日本児童教育振興財団のご協力をいただき、同財団のウェブサイト Books from Japan 上に全出版図書の英文シノプシスを掲載し、世界の出版関係者に事前周知が図られた。展示にあたっては各図書にプリントした英文シノプシスを添付した。

前回(第六八回)同様に日本を含むアジア諸国は四号館一階で、会場は通路側の幅一mのカーペットを赤で統一することで、一体感を出し、天井からは社名表示の標識を吊るすなど遠距離からも目立つ工夫がなされた。

フェア全体としては、出展社数七三〇九社(前回七二五四社、〇.二%増)、入場者数二八万六四二五人(前回二七万八〇三三人、三.〇%増)と微増だった。次回(第七〇回)のフェアは二〇一八年一月一日(水)から二四日(日)の五日間、ジョージアをテーマ国にして開催される。

(販売・出展委員長 吉野和浩)



版權取引が行われている日本ブース

出版・印刷人の集い報告

二〇一七年一月二二日に第二〇回「出版・印刷人の集い」が、東京都印刷工業組合出版メディア協議会の主催、出版絆会と自然科学書協会の協賛で、約一五〇名の参加者を得て開催された。

この会は二部構成で、まず第一部は一六時から日本出版会館において、株式会社文化通信社常務取締役編集長である星野渉氏が「アマゾン・アメリカ最新情報」と題して講演された。アマゾンに代表されるアメリカの出版最新情報を紹介したあと、日本の出版界の実情と絡めて解説され、今後の出版流通や取引制度のあり方についても多くの示唆に富んだ話題を提供して頂いた。

第二部では、会場を日本出版クラブ会館に移して、東京都印刷工業組合会員と

出版関係者との懇親会が開催された。

まず主催者を代表して出版メディア協議会日岐浩和会長の開会挨拶があり、次に協賛団体を代表して当協会南條光章理事長が挨拶に立ち、日ごろからの協力に感謝の意を表したあと、ここ一年の出版界を振り返って、さまざまな業界の動向や出版界の抱える課題などについて話し、今後も引き続き同協議会に専門書の出版活動に対して理解あるご支援をお願いしたいと述べた。

出版絆会今村正樹理事長の乾杯の発声で懇親会が始まり、途中恒例の豪華景品が当たる福引抽選会も行われ盛り上がりながら、和やかなうちに精興社相談役青木宏至氏の中締めで閉会となった。

(広報副委員長 下出雅徳)



業界誌ならではの話題に聞き入る会場の様子

第20回 出版・印刷人の集い



開会の挨拶を行う南條理事長

■第六七期理事会・委員会開催一覧

(二〇一七年二月〜十二月)

●理事会

・二月七日(木) 一二月定例理事会／一四時三〇分〜一五時三〇分 日本出版クラブ会館

●委員会

・一月一四日(火) 販売・出展委員会幹事会／一四時三〇分〜一六時三〇分 裳華房

・二月五日(火) 販売・出展委員会自然科学書フェア小委員会／一五時〜一六時 日本出版クラブ会館

・二月五日(火) 販売・出展委員会／一六時〜一七時三〇分 日本出版クラブ会館

年末会員懇親会報告

二〇一七年二月七日(木) 一八時より日本出版クラブ会館鳳凰の間において恒例の年末会員懇親会が開催され、来賓一八名、会員三三社六九名の計八七名が出席した。

開会にあたり南條理事長は、前理事長である金原優理事への謝意を述べた後、正式に一般社団法人としてスタートするにあたって、会員社とともに実のある活動をしていきたいと決意を持って挨拶した。

来賓を代表して登壇した相賀昌宏氏



功労者表彰を受けられた宮部氏、筑紫氏、小立氏、松嶋氏(左より)



相賀昌宏氏



南條光章 理事長



筑紫恒男氏



川上浩明氏



飯塚尚彦 副理事長



安西浩和氏

(一般社団法人日本書籍出版協会理事長)は、出版関連団体で要職を務める南條理事長に謝意を述べた後、科学者や医師といった人たちは論文はもちろんのこと、人の心を揺り動かすような文章を書くことが多い。そういった人たちが著者となり会員社と共に仕事をしていることは素晴らしい。新たな自然科学系のものが一般の人に手に取られるよう皆さん頑張ってくださいと挨拶された。

続いて登壇した川上浩明氏(株式会社トーハン専務取締役)は店頭における会員社の売上概況を伝えた後、運送費の値上げや休配など出版輸送の問題点について言及しながらも、販売会社としてこれまで通りの業務遂行を約束すると挨拶した。

この後長年理事として協会活動に従事された方を対象に功労者表彰が行われた。本年は宮部信明氏(元岩波書店代表取締役専務)、小立鉦彦氏(南江堂代表取締役社長)、松嶋徹氏(元丸善専務取締役)、筑紫恒男氏(建帛社代表取締役会長)の四氏が表彰され、南條理事長から賞状と金一封が手渡された。

功労者を代表して挨拶に立った筑紫恒男氏は、南條理事長と同期で理事になって以来の在任二年間の思い出に触れた後、会員社に対し日本の科学技術の推進発展に寄与してきた出版物を出版しているのだから、厳しい時代ではあるがこれからも中身に自信を持って良書の刊行に力を入れてほしいと話した。

安西浩和氏(日本出版販売株式会社専務取締役)は輸送問題について触れた後、日頃の謝意を述べ乾杯の音頭を取った。その後は懇談の時間となり、会場内では旧交を温めたり、情報を交換する姿があらちちらで見受けられた。

となり、飯塚副理事長は、年間二〇〇冊の目標を持って書物を読みこむと様々なことに気付かされることがある、こうした思いを引き出せる出版のありがたさを伝えていくだけではなく、科学領域を扱うものとして柔軟な考えを持ってこれからも対応していきたいと挨拶を行い、年の瀬の懇親の集いはお開きとなった。

(広報委員長 長 滋彦)

編集後記

昨年、近所の書店が閉店した。散歩や買い物の帰りに立ち寄るのが日課となっていたのでとても残念だ。ほとんど店舗はコンビニに転用された。

一方、車での距離であるが、近くに蔦屋書店を中核とした生活提案型商業施設ができた。カフェやレストラン、インテリアやファッションといったテナントが入っている(品ぞろえは児童書が中心で、残念ながら自然科学系の本はほとんど置いていない)。

最近はこのような本以外も扱う書店、本も扱う店が増えてきているように思う。文具や雑貨を扱う書店やカフェ併設の書店はめずらしくなくなったが、お酒の飲める書店、パン屋を併設する書店もあるとのこと。食品、眼鏡、玩具など書店の多角化が進む。本来なら競合するはずの漫画レンタルがある書店もあり驚かされる。

コンビニも本も扱う店。今度、本の受取りサービスでも利用してみようか。(T・I)